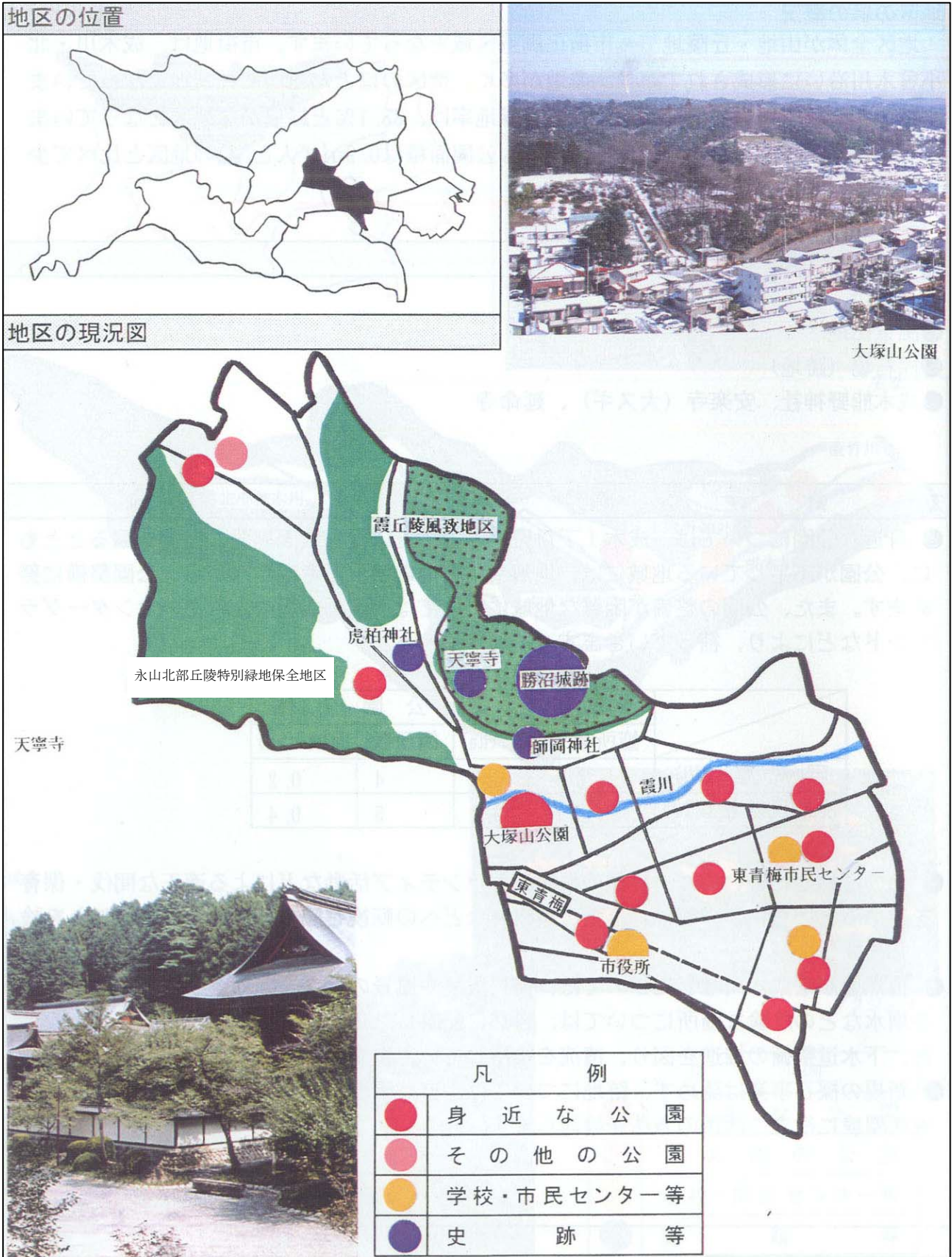


H. 東青梅地区



## 地区の緑の概況

地区の北部には丘陵地が位置し、一部は天寧寺や勝沼城跡などの史跡を含む霞丘陵風致地区として指定されています。緑地率は、76.0%となっていますが、市街地において緑の少ない状況となっています。市街地には霞川が流れ、市役所などの公共公益施設が多く立地しています。公園緑地等は、区画整理事業などにより整備され、大塚山公園を中心に、身近な公園が比較的バランス良く配置されており、平成9年現在の1人当たりの身近な公園面積は1.9㎡/人となっています。

## 緑に関する特徴的資源

- 霞川
- 永山丘陵、霞丘陵
- 霞丘陵風致地区
- 大塚山公園
- 天寧寺、勝沼城跡、師岡神社（シイノキ）、虎柏神社

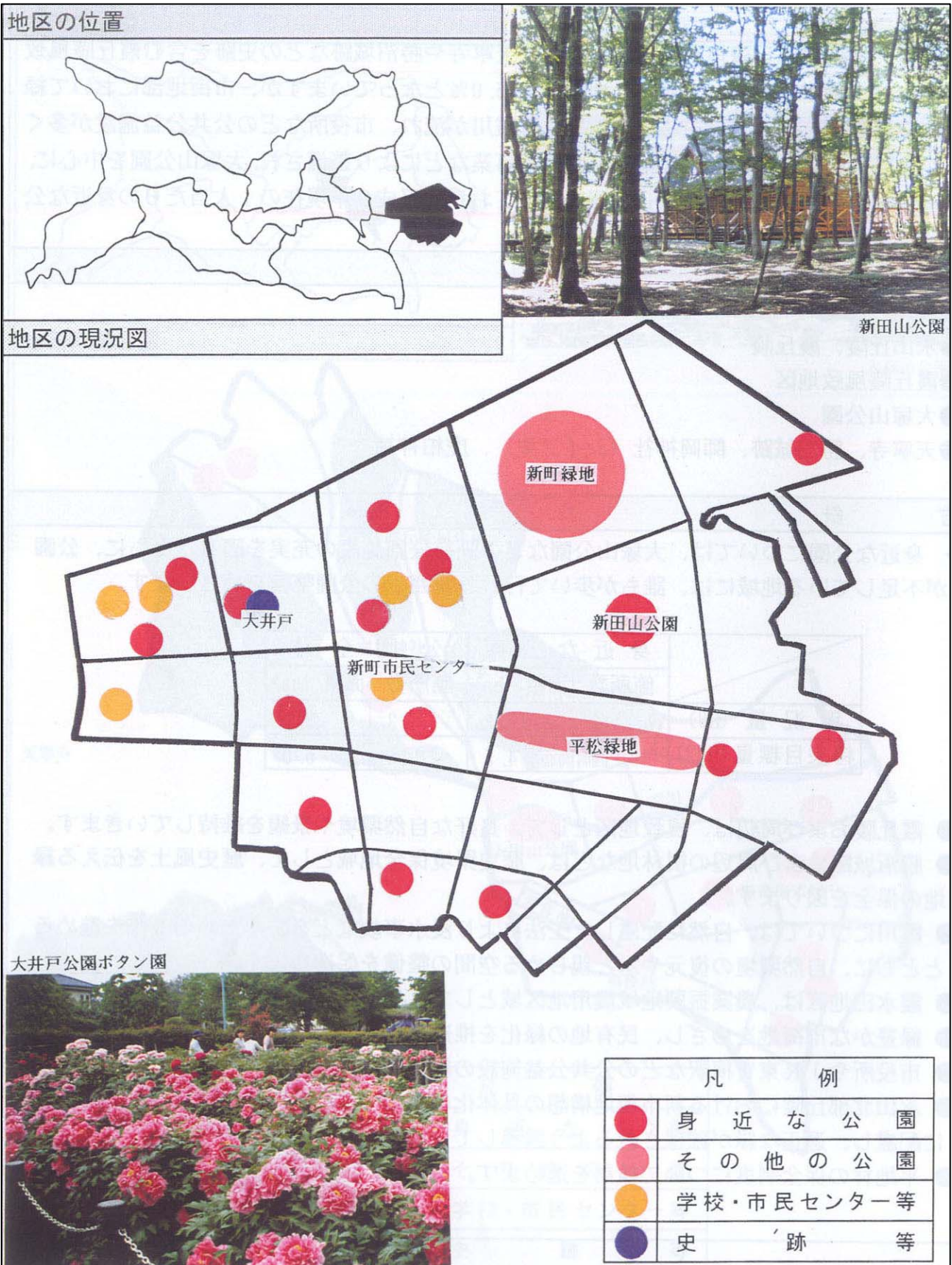
## 方針

- 身近な公園については、大塚山公園などの既存公園施設の充実を図るとともに、公園が不足している地域には、誰もが歩いて行ける範囲への公園整備をめざします。

	身近な公園		公園全体	
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)
現況量 (平成9年)	12	3.3	13	3.4
将来目標量 (平成22年)	14	4.5	15	6.0

- 霞丘陵および周辺は、風致地区として、良好な自然環境や景観を維持していきます。
- 勝沼城跡および周辺の樹林地などは、歴史環境保全地域として、歴史風土を伝える緑地の保全を図ります。
- 霞川については、自然に配慮した工法により浸水事故などを防ぐための改修を進めるとともに、自然環境の復元や水と親しめる空間の整備を促進します。
- 霞水田地区は、農業振興地域農用地区域として、農業機能の保全・育成を図ります。
- 緑豊かな市街地をめざし、民有地の緑化を推進します。
- 市役所やJR東青梅駅などの公共公益施設の緑化を推進します。
- 永山北部丘陵一帯は「青梅の森（仮称）」に位置付け、市街地に隣接した里山空間としてその保全を検討します。
- 平地林の保全制度について検討を進めます。

I. 新町地区



## 地区の緑の概況

地区全体が市街地であり、北部は農地が多く、南部は工業地域で、農・住・工の混在した土地利用となっています。緑地率は 24.8%となっており、地区全体に占める緑の割合は少ない状況となっていますが、公園緑地等は、区画整理事業によって、新田山公園をはじめとする身近な公園がバランス良く配置されているため、平成9年現在の1人当たりの身近な公園面積は、4.3 m<sup>2</sup>/人と、他の地区に比べて充実しているといえます。また、広幅員道路には、街路樹が整備されています。

## 緑に関する特徴的資源

- 新田山公園
- 新町緑地（畜産試験場）、平松緑地
- 青梅新町の大井戸、鈴法寺跡、旧吉野家住宅

## 方針

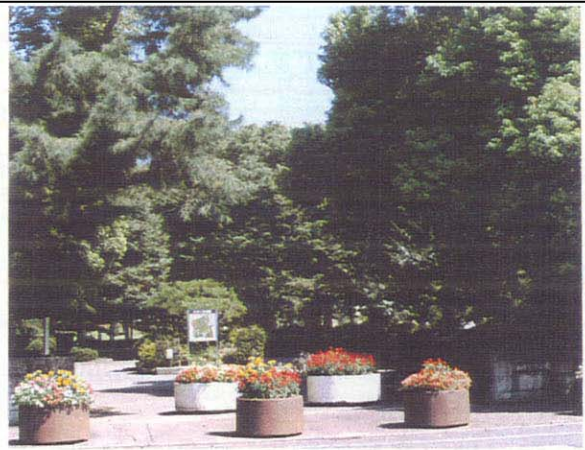
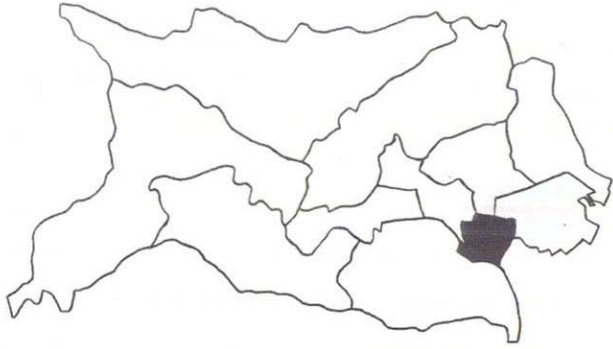
- 身近な公園については、区画整理事業により、おおむね歩いていける範囲へ整備がされています。これらの公園は、適切な維持管理を行っていくとともに、施設のバリアフリー化や防災面に配慮した植樹などを進めていきます。新田山公園については、雑木林を生かし、まちなかで自然とふれあい学ぶことのできる環境学習の場としても充実を図っていきます。
- また、住宅地と工業地域の間には、騒音・振動を軽減するなどの緩衝機能をもつ平松緑地の充実を図るとともに、圏央道青梅トンネル換気塔周辺地を利用した都市緑地の整備を進めます。

	身近な公園		公園全体	
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)
現況量 (平成9年)	15	7.7	21	33.4
将来目標量 (平成22年)	15	7.7	22	34.5

- 地区計画制度により、民有地の緑化を推進し、緑豊かな市街地をめざします。
- 街路樹などの道路の緑化により、緑の拠点をつなぐネットワークの形成を進めます。
- 市街化区域において、公災害の防止などの良好な生活環境の確保に役立つ農地は、生産緑地地区として保全を図ります。
- 緑豊かな市街地をめざし、民有地の緑化を推進します。
- 平地林の保全制度について検討を進めます。

J. 河辺地区

地区の位置



わかぐさ公園

地区の現況図



市民球技場

凡 例	
<span style="color: red;">●</span>	身近な公園
<span style="color: pink;">●</span>	その他の公園
<span style="color: orange;">●</span>	学校・市民センター等
<span style="color: purple;">●</span>	史 跡 等

## 地区の緑の概況

地区の南部には多摩川が流れ、市街地は、住・工が混在した土地利用となっています。緑地率は 16.4%となっており、地区全体に占める緑の割合は少ない状況となっていますが、公園緑地等は、区画整理事業によって整備され、わかぐさ公園を中心に身近な公園がバランス良く配置されているため、平成9年現在の1人当たりの身近な公園面積は、4.8 m<sup>2</sup>/人と、他の地区に比べて充実しています。また、連続して残る河岸段丘の崖線樹林が特徴ある景観をつくりだしています。

## 緑に関する特徴的資源

- 多摩川
- わかぐさ公園、市民球技場
- 河岸段丘の崖線樹林
- 団地の植栽や広場

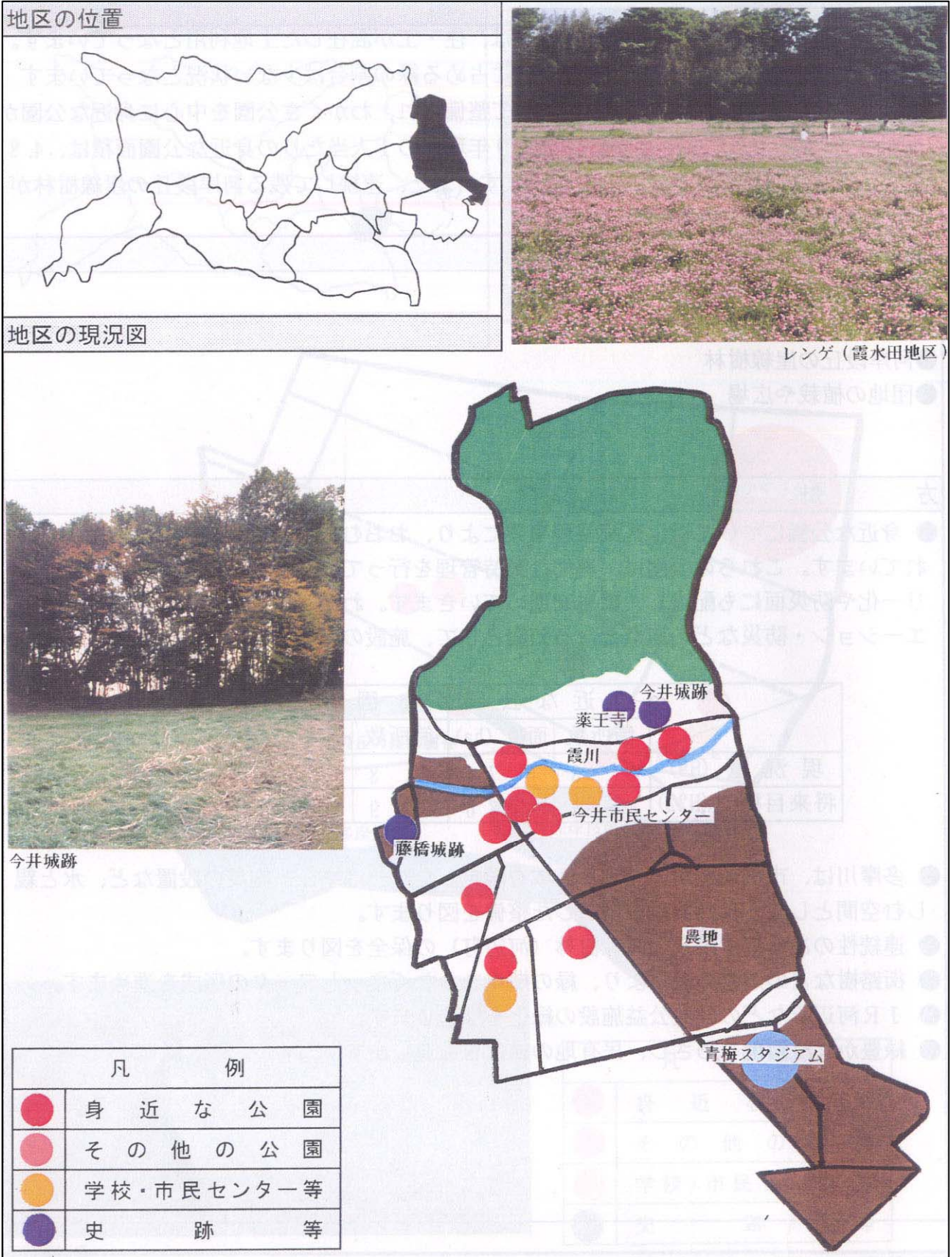
## 方針

- 身近な公園については、区画整理事業により、おおむね歩いていける範囲へ整備がされています。これらの公園は、適切な維持管理を行っていくとともに、施設のバリアフリー化や防災面にも配慮した植樹を進めていきます。わかぐさ公園については、レクリエーション・防災などの拠点となる公園として、施設の充実を図っていきます。

	身近な公園		公園全体	
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)
現況量 (平成9年)	8	7.6	8	7.6
将来目標量 (平成22年)	8	7.6	9	42.7

- 多摩川は、市民球技場の充実や区域を限定したバーベキュー施設の設置など、水と親しむ空間として、自然環境を生かした整備を図ります。
- 連続性のある河岸段丘の崖線樹林（河辺町）の保全を図ります。
- 街路樹などの道路の緑により、緑の拠点をつなぐネットワークの形成を進めます。
- JR河辺駅などの公共公益施設の緑化を推進します。
- 緑豊かな市街地をめざし、民有地の緑化を推進します。

K. 藤橋・今井地区



## 地区の緑の概況

地区の北部に丘陵地が位置し、南部は市街地で、工場が多く立地し、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)青梅インターチェンジが整備されています。緑地率は78.7%となっており、霞川周辺には集約的な農地、青梅インターチェンジ周辺には広大な茶畑が広がり、青梅スタジアムなどの施設が整備されています。また、今井城跡や藤橋城跡などの史跡も豊富です。平成9年現在1人当たりの身近な公園面積は0.9㎡/人と、他の地区と比べて少ない状況となっています。

## 緑に関する特徴的資源

- 霞川
- 七国山(七国峠)
- 霞水田地区
- 青梅スタジアム
- 今井城跡、藤橋城跡、薬王寺、正福寺(今井氏の墓)

## 方針

- 身近な公園については、細道公園などの既存公園施設の充実を図るとともに、公園が不足している地域には、誰もが歩いて行ける範囲への公園整備をめざします。

	身近な公園		公園全体	
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)
現況量(平成9年)	10	1.0	10	1.0
将来目標量(平成22年)	14	2.7	15	6.8

- 霞川については、自然に配慮した工法により浸水事故などを防ぐための改修を進めるとともに、自然環境の復元や調節池上部を利用した公園などの水と親しめる空間の整備を促進します。
- 藤橋城跡などの歴史を伝える史跡の公園的活用を図ります。
- 圏央道青梅インターチェンジ南側の農地については国有農地などを中心として、東京都と連携しながら、農業とふれあえる場としての活用を検討していきます。
- スポーツ・レクリエーションの拠点となる青梅スタジアムの充実を図ります。
- 緑豊かな市街地をめざし、民有地の緑化を推進します。
- 圏央道青梅インターチェンジ北側における新市街地構想の具体化にあたっては、周辺の自然環境との調和に配慮し、適正な緑が確保されるよう誘導していきます。
- 平地林の保全制度について検討を進めます。